

## 新小山市民病院共同利用実施要綱

### 1. (目的)

この要綱は新小山市民病院（以下「病院」という）に共同利用病床並びに共同利用医療機器を設置し、もって病院と地域連携登録医療機関（以下「登録医」という）が相互協力し、地域医療に貢献することを目的とする。

### 2. (定義)

(1)「共同利用病床」とは、院長が承認する登録医の医師が病院の施設を利用し、入院させた患者に対して療養上必要な指導を病院医師と共同して行うことのできる病床をいう。

(2)「共同利用医療機器」とは、以下の医療機器とする。

- 1.内視鏡装置
- 2.超音波検査装置
- 3.磁気共鳴コンピュータ断層撮影装置(MRI)
- 4.コンピュータ断層撮影(CT)
- 5.X線骨密度測定

### 3. (登録医療機関)

共同利用病床または共同利用機器を利用しようとする医療機関は承諾書に所定の事項を記入した上、提出しなければならない。

### 4. (入院)

(1) 登録医が患者の入院を希望するときには、勤務時間内は医療連携相談室に、時間外は管理当直の看護師に連絡するものとする。連絡を受けた医療連携相談室の担当者又は管理当直の看護師は関係者と協議の上入院の受け入れを当該登録医に連絡する。

(2) 入院受け入れの連絡を受けた登録医は患者に共同利用病床について説明、了解を得たのち、診療情報提供書を持参させるものとする。

### 5. (検査)

(1) 登録医が患者の検査を希望するときには、内視鏡検査・超音波検査については医療連携相談室、磁気共鳴コンピュータ断層撮影(MRI)・コンピュータ断層撮影(CT)・X線骨密度測定については放射線科に連絡するものとする。連絡を受けた医療連携相談室の担当者または放射線科の担当者は予約状況を確認の上、検査予約を入れ、当該登録医に連絡する。

(2) 検査予約の連絡を受けた登録医は患者に共同利用についての説明、了解を得たのち、診療情報提供書を持参させるものとする。

### 6. (主治医・協同指導)

(1) 登録医は、自ら共同利用病床に入院させた患者について院内常勤医師と療養上の協同指導を行うことができるが、主治医は院内の常勤医師が担当する。

- (2) 登録医は診療に必要な指示等は、院内主治医と協議できるが、指示の選択、治療方針の決定は院内主治医がおこなう。
- (3) 登録医は病棟において、患者の協同指導を行ったときはその都度診察所見、その他の意見を診療録に記載し、署名するものとする。

#### 7. (病床数)

- (1) 共同利用病床数は10床と定める。
- (2) 共同利用病床数の変更については院長のもと関係者を招集し調査、検討の上決定する。

#### 8. (症例検討会)

共同利用の関係者は、必要の都度症例検討会を開催し、研鑽に努めるものとする。

#### 9. (その他)

- (1) 共同利用病床の入院患者の扱いは療養上必要な協同指導を受ける以外は他の入院患者と同様とする。
- (2) この要綱に定めるもののほか共同利用病床並びに共同利用医療機器の取扱いについて必要な事項は院長のもと関係者を招集し協議し定めるものとする。